



愛知大会

県内の新型コロナ感染者数 (8日現在)

| 市町村名 | 計 |
|-------|-------------|
| 名古屋市 | 24255(+161) |
| 一宮市 | 2298(+19) |
| 瀬戸市 | 866(+4) |
| 春日井市 | 2233(+21) |
| 犬山市 | 397(+5) |
| 江南市 | 567(+2) |
| 小牧市 | 1163(+6) |
| 稲沢市 | 712(+4) |
| 尾張旭市 | 546(+4) |
| 岩倉市 | 336 |
| 豊明市 | 476 |
| 日進市 | 581(+5) |
| 清須市 | 508(+4) |
| 北名古屋市 | 614(+5) |
| 長久手市 | 364(+2) |
| 東郷町 | 243(+3) |
| 豊山町 | 126(+1) |
| 大口町 | 148 |
| 扶桑町 | 182(+1) |
| 津島市 | 352(+3) |
| 愛西市 | 378(+3) |
| 弥富市 | 301(+1) |
| あま市 | 758(+7) |
| 大治町 | 312(+1) |
| 蟹江町 | 331(+3) |
| 飛島村 | 35 |
| 半田市 | 693(+3) |
| 常滑市 | 281(+2) |
| 東海市 | 655(+7) |
| 大府市 | 487(+4) |
| 知多市 | 450(+1) |
| 阿久比町 | 81 |
| 東浦町 | 289(+4) |
| 南知多町 | 86 |
| 美浜町 | 100 |
| 武豊町 | 178 |
| 岡崎市 | 2263(+22) |
| 碧南市 | 462 |
| 刈谷市 | 805(+7) |
| 豊田市 | 2662(+5) |
| 安城市 | 888(+6) |
| 西尾市 | 1152(+3) |
| 知立市 | 484(+6) |
| 高浜市 | 269(+1) |
| みよし市 | 366(+3) |
| 幸田町 | 234 |
| 豊橋市 | 2666(+26) |
| 豊川市 | 900(+2) |
| 蒲都市 | 461(+2) |
| 新城市 | 151(+2) |
| 田原市 | 195 |
| 設楽町 | 6 |
| 東栄町 | 5 |
| 豊根村 | 1 |
| 尾張地方 | 12 |
| 三河地方 | 5 |
| 県外 | 309(+4) |
| 合計 | 56678(+375) |

※県内の発表に基づき、居住地別に計上。自治体は県のホームページ記載順。○内は前日から増加、尾張地方、三河地方は、県が自治体名を明らかにしなかった昨年3月上旬までの分。

美しい「蒲郡の海」思い出

海の日本「お魚王子」鈴木さんがトーク

「海・みなど・蒲郡実行委員会」は11月にかけて「蒲郡で海の思い出をつくらう」と題したイベントを開いている。日本財団の取り組み「海の日本プロジェクト」の一環。

【林大朗】

子どもらに海に対する好奇心を高め、海の大切さや重要性を学ぶ機会としてイベント採取体験を企画した。海岸で磯の観察や採取があり、ラグナシアでは、さかなクンの講演会を予定している。初回は蒲郡市海陽町の豊田自動車機械海陽ヨットハーバーで7日、岸壁幼児採集家の鈴木香里武(かりぶ)さんのトーク

イベントがあった。鈴木さんは「お魚王子」と呼ばれる観賞魚の癒やし効果や稚魚の生活を研究しながら漁港の魚を観察し続けている。

鈴木さんは小さい魚の生態はなぞが多いことを話した。その中で、海に潜らず魚を常に観察でき場所として漁港を紹介。身近で幼魚を発見できると述べた。鈴木さんは「身近な海や魚に親しんでほしい」と話した。

第1回目イベント

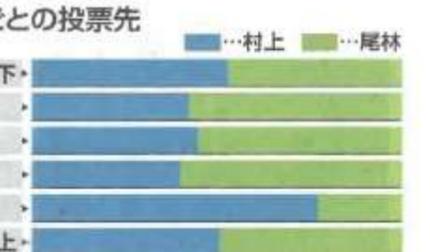
中日

出直し東栄町長選 出口調査

診療所縮小 反発広がらず

八日投票された出直しの東栄町長選。中日新聞社の出口調査で、争点となった町営診療所の体制縮小の是非を聞いたところ、「容認」または「どちらとも言えない」と回答した人が合わせて六割近くに上った。反発の声が広がらず、人口減や財政難が進む中、「できる範囲で医療を残す」と理解を求めてきた前町長の村上孝治さん(65)の三選を後押しする結果となった。

(鈴木弘人)



八割近くから支持を得た。東栄町の当日有権者数は二千六百七十三人で、本紙の出口調査は二百二十八人から回答を得た。結果のグラフは敬称略。

たどられる。一方、尾林さんは前回に投票した90%の支持を固めた。

二人とも無所属での出馬だったが、自民や立憲民主支持の六割前後が村上さんに投票。尾林さんは「支持政党なし」の64.5%を集めた。年代別では三十一〜五十代で尾林さん優勢で、村上さんは同年代の六十代の

過疎対策と合わせ知恵を

【解説】東栄町長のリコール(解職請求)運動を契機に町の医療縮小への危機感が、有権者に高まった。それでも人口減、財政難にあきらめが広がる過疎の町は、苦しみ抜いた末、「医療の縮小やむなし」の判断をした前職の村上孝治さんに信任を与え

争点となった町営診療所は二〇〇七年の公設民営化に伴い、医療従事者の待遇に手を付けた結果、一時黒字化に成功した。だが人材不足と医療サービスの低下を招き、その後、かえって赤字幅を拡大させた。役場OBで「財政通」と



出直し選は村上さんと縮小に反対する元職の尾林克時さん(60)の一騎打ちとなった。町営診療所の縮小について、「反対」の人は37.3%と最多。ただ「容認」と回答した人も29.4%に上り、「どちらとも言えない」は30.3%だった。「容認」とした人の91%、「どちらとも言えない」と答えた人の60.9%と答えた人の60.9%と答えた人の60.9%